

「特殊教育学研究」和文論文執筆の手引き

(2012年6月18日改正)

I. 原稿の仕様

1. 原稿の構成は原則として次の通りとする。
 - 1) 連絡票
 - 2) 表紙
 - 3) 和文要約(キー・ワードを含む)
 - 4) 本文
 - 5) 文献(引用文献・参考文献)
 - 6) 図表
 - 7) 英文要約(Key Wordsを含む)
 - 8) 英文要約の邦訳
 - 9) 投稿承諾書
2. 原則としてワープロを用い、A4判用紙に上下、左右に3 cm程度の余白をあげ、25字×32行(800字)で印字された原稿を提出する。A4判用紙の原稿2.5枚は刷り上がり1頁に相当する。
3. 全ての種類の論文において、本文、文献、図表、要約(和文・英文)を全て含めた論文の刷り上がり頁数(学会誌印刷頁)は、10頁を上限とする。

また、論文全体のうち、要約(和文・英文)は刷り上がりで合計約1.5頁を要するため、それ以外(本文、文献、図表)のための頁は、刷り上がり約8.5頁となる。これはA4判用紙(800字)に換算すると21枚分に相当する。この規定枚数を越えた論文は原則として受稿されない。

図表等の原稿文字数への換算方法は、「VIII. 図表及び写真」を参照のこと。

なお、印刷の段階で規定超過となった頁に要する経費は投稿者の負担とする(当分の間、負担額は超過1頁につき10,000円)。
4. 原稿には、通しの頁番号を必ず振っておく。

II. 提出原稿部数および電子媒体の提出

1. 原著・資料・展望論文の原稿については、オリジナル1部とコピー3部(計4部)を提出する。
2. 研究時評・実践研究の原稿については、オリジナル1部とコピー2部(計3部)を提出する。
3. オリジナル1部には連絡票をつける。
4. コピー原稿の表紙には論文の種類と表題のみを記し、著者名、所属は記さない。
5. 論文が採択された後、図表を除くすべての原稿内容がテキストファイル形式(txt)で保存されたフロッピーディスク、CD-R等の電子媒体1部を最終原稿とともに提出する。
6. 電子媒体に、著者名、論文の表題、論文の種別、を下記の記入例のように記載したものを添付する。著者が多数の場合は2名程度に略してよい。
7. 電子媒体を用意できない場合は、その旨を連絡票の⑥に明記する。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 山田太郎・田中花子・ ○○○○における△△△△におよぼす××××の効果・ 原著 |
|---|

ラベルの記入例

Ⅲ. 連絡票

連絡票には、下記の①から⑥までの事項を一括して一葉に記す。

- ①連絡先氏名・住所： 〒000-0000 山花市曙1-2-1
山花大学教育学部 山田太郎
- ②電話番号： 0000-00-0000
- ③ファックス番号： 0000-00-0000
- ④e-mail アドレス： yamada@yamahana-u.ac.jp
- ⑤原稿の枚数： 本文および文献 ○○枚（刷り上がり頁数換算で○.○頁）
図 ○枚（刷り上がり頁数換算で○.○頁）
表 ○枚（刷り上がり頁数換算で○.○頁）
写真 ○枚（刷り上がり頁数換算で○.○頁）
和文要約 ○枚（刷り上がり頁数換算で0.5頁）
英文要約 ○枚（刷り上がり頁数換算で1.0頁）
-
- 計 ○○枚（刷り上がり頁数換算で○.○頁）
同日本語訳 ○枚
- ⑥採択された場合の電子媒体提出の可否： 可（使用ソフト名）

Ⅳ. 表紙

表紙には、下記の①から⑧までの事項を一括して一葉に記載する。

- ① 論文の種類別：原著論文、資料、展望、研究時評、実践研究の種類を明記する。
- ② 表題：論文内容に即したものとし、一連の研究の場合は類似した表題は避ける。
例：「○○○における△△△△におよぼす××××の効果」
- ③ 著者名：著者が複数の場合は[・]で区切る。
例：山田太郎・田中花子
- ④ 所属機関名：大学の場合は、学部名等も記す。
例：山花大学教育学部
- ⑤ 表題の英訳：
例：×××× and △△△△：○○○○
- ⑥ 著者名のローマ字表記：原則としてヘボン式を用いる。
例：Taro YAMADA and Hanako TANAKA
- ⑦ 所属機関名の英訳：
例：Faculty of Education, University of Yamahana
- ⑧ 所属機関所在地のローマ字表記：市名、郵便番号（7桁）のみとする
例：Yamahana-shi, 000-0000

Ⅴ. 和文要約とキー・ワード

全ての種類の論文に、400字以内（25字×16行）の和文要約と3～5項目の和文キー・ワードをつける。それぞれのキー・ワードの間はスペースで区切る。なお、キー・ワード作成にあたっては、「特殊教育学研究」第37巻第4号113頁（2000）に提言として掲載されている『「特殊教育学研究」におけるキーワードの基準』を参照されたい（資料1参照）。

VI. 英文要約

全ての種類の論文に英文表題をつける。また、実践研究論文以外の全ての種類の論文にあっては、200～300語以内の英文要約、及び上記Vの和文キー・ワードと同数で順番を対応させた3～5項目の英語のKey Wordsをつける。その際、下記の諸点に留意すること。

- (1) 熟達した人の英文であるか、その校閲を経ていること。
- (2) 白紙のA4判用紙にダブルスペースで印字すること。
- (3) 和文要約とは別に、英文要約の邦訳を必ずつけること。

なお、実践研究論文では、可能な場合には投稿者が英文要約(英文キーワードを含む)をつけることが望ましい。投稿者が英文要約をつけることが困難な場合には、当該論文が審査を経て掲載可となった場合に、編集委員会が和文要約に対応した英文要約を作成し掲載するものとする。したがって、実践研究論文にあっては、英文要約に要する印刷頁数(刷り上がり1頁分)をあらかじめ除いた頁数が、本文・図表(文献を含む)のための頁数となる。実践研究論文を投稿する際には、この点に注意されたい。

VII. 本文

1. 論文構成に用いる記号

論文構成に用いる記号はローマ数字(全角)、算用数字(全角)、両括弧付算用数字(全角)の3段階程度とし、細かくなり過ぎないようにする。また、見出しのあとにはピリオドをつけない。

- (1) 大見出し：ローマ数字を用い、上に1行をあける。
- (2) 中見出し：算用数字を用い、上に行をあけない。左端から1字あけて書く。本文は改行して始める。
- (3) 小見出し：(1)のように算用数字に両括弧を付け(ともに全角サイズ)、上に行をあけない。左端から2字あけて書き、コロン(:)で区切って本文を書き始める。
- (4) これ以下の小見出しについては左端から2字あけることとし、記号は著者の用いたものをそのまま用いる。

2. 表記について

- (1) 記号：以下の記号を用いることができる。

記号	使用例
① 中点(・)	並列する同種の語を列挙する場合。
② ハイフン(ー)	外国語の対語・対句の連結の場合。
③ 引用符(“ ”または「 」)	引用文に用いる。
④ 括弧	() または [] を用いる。
⑤ コロン(:)	例、説明などを導く場合などに用いる。
⑥ セミコロン(;))	引用文献を列挙する場合、あるいは検定結果を列挙する場合に用いる。
⑦ 省略符(…)	引用文の一部あるいは前後を省略する場合に用いる。

- (2) カタカナ：本文中の外国語の使用はできるだけ避け、原則として日本語化した外国語を記述する時にのみ用いる。

- (3) 数字：原則として算用数字を用いる。
- (4) 略語：一般に用いられているものに限る。ただし、必要な場合には、初出の時にその旨を明記する。
- (5) 検定結果の表記：各種統計的検定の結果を示すときには、以下のように検定統計量、自由度ならびに有意水準等を明記する。

$$(F(1, 50) = 7.05, p < .05), (\chi^2(5) = 1.54, p < .05) \text{ など}$$

※*F*, *t*, *p*などは斜体（イタリック）とすること

VIII. 文献

1. 引用文献：本文において引用されたすべての文献を、著者名のアルファベット順に論文の後に「引用文献」として一括して記載する。同一著者の複数の文献は発行年順とする。同一著者による同一年の文献が含まれる場合は、発行年の後に小文字のアルファベットを付けて区別する。
 2. 参考文献：本文中に引用はしていないが論文内容と密接に関連し、特に紹介すべきであると考えられる文献については、「参考文献」として、「引用文献」の後に同様に一括して記載する。著書については、頁数の記入はなくてもよい。
 3. 引用文献および参考文献の書式
 - (1) 雑誌：著者名（西暦年）題目．雑誌名，巻数（必要な場合は号数），開始頁－終了頁．
 - (2) 著書：著者名（西暦年）書名．出版社，出版地，開始頁－終了頁（必要な場合）．
 - (3) 分担執筆：著者名（西暦年）章題．編者名（編），書名．出版社，出版地，開始頁－終了頁．
 - (4) 訳書：原著者名（西暦年）原書名．出版社，出版地，訳者名（西暦年）書名．出版社，開始頁－終了頁（必要な場合）．

※ 欧文の書名（原書名）および雑誌名は斜体（イタリック）とする。

※ 和文著書の場合、出版地は省略する。
 4. インターネット上の情報の引用：インターネット上の情報の引用はできるだけ避け、同一の資料が紙媒体でも存在する場合は、紙媒体のものを出典とすることを原則とする。ただし、インターネット上の情報を引用する場合には、その出典を明記するとともに、Web 上からの削除が予想されるので、必ずコピーをとって保管し、編集委員会からの請求があった場合、速やかに提出できるようにする。
- 書式：著者名（西暦年）資料題名．サイト名，アップロード日，URL（資料にアクセスした日）．

例：

山田太郎・田中花子（2001a）知的障害幼児の統合保育に関する調査研究. ○○支援研究, 3, 26 - 32.

山田太郎・田中花子（2001b）知的障害幼児の統合保育に関する事例研究. ○○支援研究, 3, 100-108.

Cooper, S. A., Bucy, A., & John, R. (2001) Early onset of autism. *International Journal of **** Education*, 56, 692-700.

田中花子（1975）○○障害幼児の研究. ○○文化科学社.

Wilder, L. (1991) *Neuroanatomy of autism*. The **** Press, London.

田中花子（1975）○○障害幼児. 山田太郎（編），障害○○の心理学. ○○文化科学社, 11 - 49.

Miller, S. R., Miller, C. S., Dolan, J., & Anderson, J. A. (1999) Down syndrome: Cognition, behavior, and genetics. In A. M. Kohlenberg & D. Atkinson (Eds.), *Handbook of **** disorders*. **** Press, New York, 61 - 115.

Knight, L. & James, W. (1999) *Educating and understanding **** syndrome*. **** Press, London. 田中花子・山田太郎監訳（2002）○○症候群への発達支援. 山花学術出版社, 52 - 65.

日本特殊教育学会（2006）倫理綱領. 日本特殊教育学会, 2006年9月6日, <http://www.jase.jp/rinri.html>（2010年10月9日閲覧）.

The Japanese Association of Special Education (2010) Organization. The Japanese Association of Special Education, January 28, 2010. <http://www.jase.jp/eng/organization.html> (Retrieved October 9, 2010).

→（1）雑誌（和）：

同一著者・年は a, b で区別。

→（1）雑誌（欧）：

著者3名以上では&の前に(,)を必ず入れる。雑誌名は斜体。

→（2）著書（和）：

→（2）著書（欧）：書名は斜体。

→（3）分担執筆（和）

→（3）分担執筆（欧）：

編者 1 名：(Ed.)，編者複数：(Eds.)。3名以上は&の前に(,)を挿入。書名は斜体。

→（4）訳書：

原書名は斜体。

→（5）インターネットからの引用：

アップデート日の年を発行年とみなす。

5. 本文中の引用の仕方

著者名の省略は避け、全員の名前を明記する。ただし、著者が3名以上である場合は初出時のみ全員の名前を明記し、その後は「(筆頭著者名)ら」(欧文の場合は「(筆頭著者名) et al.」)と記す。著者が複数の場合、著者名の連記は以下の例に従うこととする。

(1) 文中の場合

例：◎山田・田中（1981）および佐藤（1980）は…

◎佐藤・山田・中川・大川（1963）は…。…佐藤ら（1963）…。

◎Sturges and Martin（1974）は…。(&記号は用いない。著者が2名の場合、andの前に(,)を入れない。

◎Wallach, Newman, and Rosenzweig（1974）は…。…Wallach et al.（1974）によると…。(著者が3名以上の場合、andの前に(,)を入れる)

(2) 文末などの()内の場合

例：◎・・・と指摘されている（山田・田中，1981；佐藤，1980）。

◎・・・と指摘されている（Wallach, Newman, & Rosenzweig, 1974；・・・）。

※ &の記号を用いる。

※ 引用文献が複数の場合はセミコロン（；）で連ねる。

※ カッコ内の引用順は、論文末にあげる引用文献の順に準ずる。

（3）その他 文献研究等ではつぎの表記とする。

例：◎・・・と指摘されているが（Martens [1965] 56）、これを否定する見解もある（Farrell [1970] 121）。

IX. 図表及び写真

1. 図表の表記：引用順に Fig. 1, Table 1 のようにする。
2. 図表・写真の用紙：原則として A4 判の白紙を使用し、用紙 1 枚につき図表・写真等各 1 点とする。
3. 図表・写真の大きさ

（1）図の大きさは、その図が学会誌に印刷された時（刷り上がり）のスペースで決まる。図の横幅は、原稿刷り上がり時にスペースも含め、本誌 1 ページの半幅（70 mm：片段）または全幅（145 mm：全段）以内とする。図の縦の長さは、片段、全段とも 200mm 以内とする。

刷り上がり時に図中の文字は 8～9 ポイントになることを想定する。

（注意）図表の刷り上がりの大きさは、図に含まれる情報の量によって決められる。極端に縮小されて投稿された図表の場合には、刷り上がりの大きさは執筆者の算定サイズより大きく算定される。既刊の学会誌掲載の図表で、内容の量と図の大きさを確認すること。

（2）提出用の図表は、原則として学会誌面での印刷時の 2 倍の大きさで作成する。

（3）図表の原稿文字数への換算方法

図表が、刷り上がり時に印刷頁上で「概ね、どの程度の文字数を占めるのか」を求める。

【図】最新刊の学会誌を参考に計算する。図の縦の長さには、図のタイトル、説明も含まれる。刷り上がりの学会誌 1 頁は、24字×2段×43行の構成である。

a) 図の横幅が半幅の場合、

（図の縦の長さに含まれる印刷行数）×24字＝（図の占める文字数）

b) 図の横幅が全幅の場合、

（図の縦の長さに含まれる印刷行数）×48字＝（図の占める文字数）

例1：半幅の図で、その縦の長さが印刷頁 5 行分であれば、

文字数：24字×5行＝120字分

例2：半幅を超える図は、全幅扱いとなり、縦の長さが印刷頁 5 行分であれば、

文字数：48字×5行＝240字分

例3：標準的な大きさの図（90 mm × 90 mm）は全段扱いとなり、刷り上がり約1/2頁を占める。

文字数：48字×43行＝2,064字分

- 【表】8ポイント使用時に、横 150mm 以内、縦 190mm 以内となるように作成する。
表の行間は、刷り上がり文字行の行間と概ね等しくなるようにする。
文字数の算出方法は、タイトル、説明も含む表の大きさをもとにし、図の場合に準ずる。
- ※図表の印刷頁で占める文字数について、より正確な算定が必要な投稿者は、編集部に算定基準があるので問い合わせてください。
- (3) 図及び表中の註：いずれも図表の下部に、右につめて記す。図、表、写真などの題、説明文、図表中の文字は英文に統一してもよい（資料 2・資料 3 参照）。
 - (4) 表作成上の注意：原則として縦線は用いず、また横線はなるべく少なくする。
 - (5) 本文の右横の空白に図表及び写真の挿入箇所を指定する。
 - (6) 写真を掲載する場合には、個人情報保護に特に注意を払うこと。
 - (7) 写真などの製版に要する費用は投稿者の自己負担とする。

X. 註釈

必要がある場合は、本文中にその箇所を明示したうえで、¹⁾、²⁾ ---- のように上付きで通し番号をつけて註を付す。また、本文と文献欄の間に、すべての註を 1)、2) ---- のように番号順に記載する。

例：本文 Martens の現状擁護の主張 (Martens [1965] 56) に対して、Farrell はそれとは異なる立場¹⁾ をとる (Farrell [1970] 121)。

註欄 1) Martens の理解に対立する Farrell の見解は、----- という主張にみられるように (Farrell [1970] 129)、特殊教育のみならず、社会的環境の変化に基づいているのは明らかである。

2) ----

3) ----

XI. 研究倫理の遵守

投稿者は本学会の「倫理綱領」を遵守し、投稿する論文の内容について十分に人権及び研究倫理上の配慮をしなければならない。また、研究実施の際に配慮した研究倫理に係る事項があれば、論文中に記載すること。

XII. 承諾書

論文を投稿する場合には、本手引きの最終頁にある、著作権に係る承諾書を 1 部提出すること。

XIII. 投稿の資格

著者全員が日本特殊教育学会の会員であり、年会費を納入済みであること。

資料 1

特殊教育学研究,37(4),113,2000.

提言

本機関誌では研究論文の検索を容易にするためにキーワードが各論文に記載されている。キーワードが検索に効率的に役立つためにはワードの選択が適切に行なわれる必要がある。基本用語データベース作成委員会（梅谷委員長）のとりまとめを常任編集委員で審議され、承認されたキーワードの基本は以下の通りです。参考にして下さい。（編集委員長 小林重雄）

「特殊教育学研究」におけるキーワードの基準

「特殊教育学研究」では、提出される論文にキーワードを加えることになっている。キーワードは、文献データベース等を利用して研究資料を探している人が、必要な情報を検索しやすくするために考案されたものである。したがって、キーワードは検索されやすく整えられていなければならない。論文投稿に際して、以下のことを考慮して作成すること。

- 1) キーワードは、なるべく一般的に認知されている用語を用いること。
- 2) 研究対象（障害分野）と研究内容、さらに研究方法が含まれていることが望ましい。たとえば、「聴覚障害児」、「コミュニケーション」、「手話」、「SD法」がキーワードとして用意されていれば、「聴覚障害児」の「コミュニケーション」能力について検索しようという場合などに役立つ。また、研究方法で、「SD法」の適用例を探している場合にも役立つ。
- 3) 特に研究内容については、大テーマと小テーマといったように、階層的な用語を用いることが望ましい。たとえば、大テーマとして「統合教育」を、小テーマとして「通級制」を用意するなど。
- 4) あまり大きな概念の用語は避けること。たとえば、「教育学」や「障害児教育」などの用語は、検索する場合に該当論文が多すぎて役立たない。
- 5) 論文題目の中の用語をいくつか抽出し、キーワードとすることもある。
- 6) キーワード作成に当たって、特殊教育学会が作成した「用字・用語集」の項目も参考とすることが望ましい。
- 7) 用意するキーワードは5つ程度とする。
- 8) 英文キーワードについても和文キーワードの基準に準じて作成することとする。

資料2 表の書式

Table 1 ○○○○○○○○○

題は表の上部

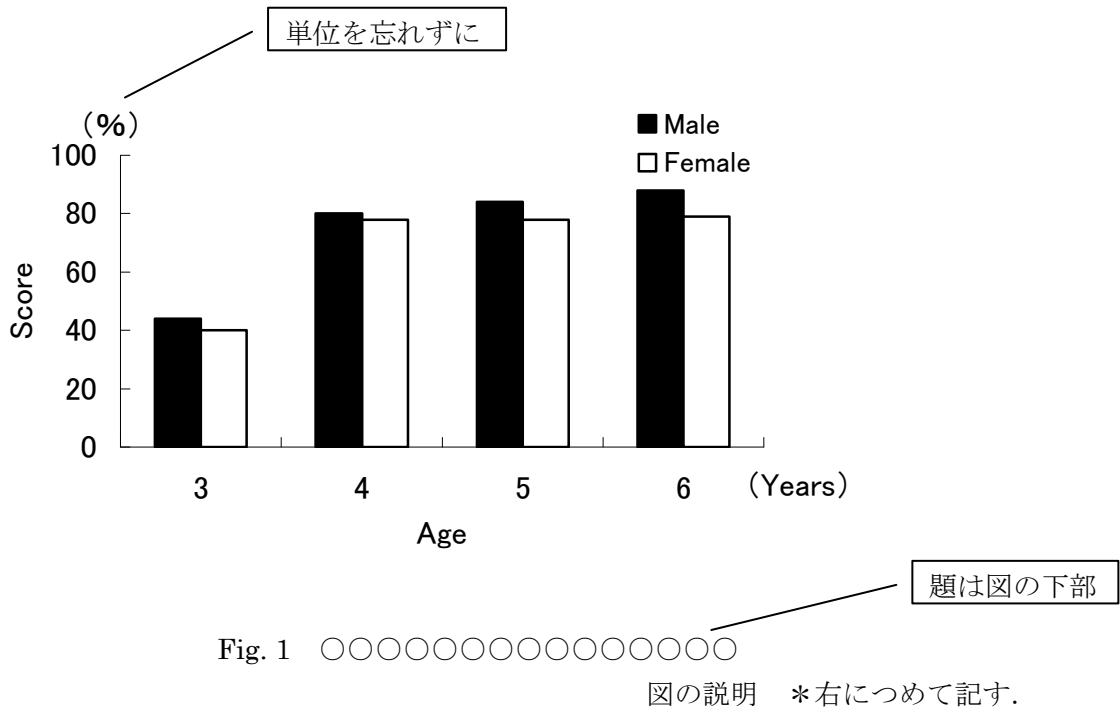
群	Word Perception		Word Memory	
	平均	SD	平均	SD
A	37.9	6.7	23.1	5.2
B	39.3	6.8	25.0	4.2
C	40.4	6.6	25.0	4.6

表の説明 *右につめて記す.

表および表注では文の句読点としてカンマ(,)とピリオド(.)のみ用いる

- ・ 縦線は用いない.
- ・ 横線は最小限で.
- ・ 要点をコンパクトに記し, 大きすぎる表は作らない.

資料3 図の書式



著作権に係る承諾書

下記の投稿論文が、審査の結果「特殊教育学研究」に掲載された場合は、この論文の著作権は、日本特殊教育学会に帰属することを承諾いたします。なお、本論文は他誌に掲載済みのも、あるいは掲載予定のものではありません。

筆頭著者：氏名 _____ ㊞
 会員番号 _____
 所属 _____

論文題名： _____

共著者：氏名 _____ ㊞
 会員番号 _____
 所属 _____

共著者：氏名 _____ ㊞
 会員番号 _____
 所属 _____

共著者：氏名 _____ ㊞
 会員番号 _____
 所属 _____

共著者：氏名 _____ ㊞
 会員番号 _____
 所属 _____

年 月 日 提出

投稿確認チェックリスト

最新の『和文論文執筆の手引き』に則って原稿の内容・書式をご確認ください。特に、投稿前には下記の事項についてご確認いただき、投稿時には、このチェックリストも必ずご提出ください。

項目	内容	✓
1. 投稿論文の書式		
原稿書式	原稿の書式（25字×32行、上下左右に3cmの余白）は合っているか	
	原稿には通しの頁番号が振ってあるか	
	規定の分量に収まっているか：刷り上がり10頁以内	
図表の書式	図表は指定された書き方になっているか	
文献の書式	論文末の文献リストは指定された書式で記載されているか	
	本文中での引用文献の書式は指定されたようになっているか	
	本文中での引用文献と文献リストは完全に対応しているか	
2. 必要な添付書類		
表紙	表題、論文種別等の記載はあるか	
本文	引用文献を含んでいるか	
図表	用紙1枚に、1図（表）が描かれているか	
和文要約	400字以内になっているか。キーワード（3～5項目）を含んでいるか	
英文要約	200～300語以内になっているか。キーワード（3～5項目）を含んでいるか	
原稿のコピー	原本以外に、必要な部数のコピー（原著・資料・展望論文は3部、実践研究・研究時評は2部）が添付されているか	
	コピー原稿では著者名・所属が不記載となっているか	
承諾書	著者全員について記載があるか	
3. 倫理的配慮事項		
研究倫理事項	研究倫理綱領（学会ホームページ参照）が遵守されているか。	
4. 投稿の資格		
会員資格	著者全員が学会員であるか	
	年会費を納入済みであるか（著者全員について）	